

コロナ禍のPCR検査で活躍

川重製ロボで

技術者育成を



中日本航空専門学校に10台寄贈

川崎重工業は、新型コロナウイルスのPCR検査で活躍した自社製のアーム型ロボットを、中日本航空専門学校（関市迫間）に10台（約2千万円相当）寄贈した。21日から授業で活用されており、同社に感謝状が贈られた。

（榎原あやな）

ロボットは、空港などに設置されたPCR自動検査装置の中に搭載されていたが、新型コロナウイルスの5類移行などでPCR検査事業が縮小し、役目を終えた。授業では、カワサキロボットサービス（兵庫県）の社員が、寄贈された「RS007N」型のロボットを使い航空ロボティクス科2年生18人に、指示の出し方を教えた。授業で使った上甲ラビニアさん（20）は「50%の速度でも動きが速いし、パワーもあるロボット」と目を輝かせた。

中村寿志校長は「寄贈いただきありがたい。初めはコロナ禍の中、空港に設置し、航空輸送を止めないという社会貢献をされた。今後は人材不足の中で、ロボットのエンジニア育成に役立てる」と話した。

寄贈されたロボットを使って産業用ロボットのプログラミングを学ぶ学生＝関市迫間、中日本航空専門学校